



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
 （奈良県保健環境研究センター内）
Nara IDSC



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（2、3月月報） NEW
- 病原体（ウイルス）検出情報（平成 23 年 3 月） NEW



（調査週） 平成 23 年 第 14 週 4 月 4 日（月）～ 4 月 10 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

| 順位 | 疾患 | 定点当たり | 奈良県 | 北 部 | 中 部 | 南 部 |
|----|-----------|-------|-----|-----|-----|-----|
| 1 | 感染性胃腸炎 | 7.83 | → | →～↓ | →～↑ | ↑ |
| 2 | インフルエンザ | 4.49 | →～↓ | ↓ | →～↓ | → |
| 3 | 水痘 | 1.29 | → | → | → | →～↑ |
| 4 | A 群溶連菌咽頭炎 | 1.03 | → | →～↓ | → | →～↑ |
| 5 | 伝染性紅斑 | 0.60 | → | → | →～↓ | ↑↑ |

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は 271 例で、前週報告の 352 例から 3 週連続で減少。上位 5 疾患は、①感染性胃腸炎、②インフルエンザ、③伝染性紅斑＝水痘、⑤流行性耳下腺炎の順。水痘の報告数（16 例）は、倍増。伝染性紅斑の報告数（16 例）は、やや増加。流行性耳下腺炎の報告数（10 例）は、ほぼ横ばい。インフルエンザの報告数（112 例）は、減少。感染性胃腸炎の報告数（93 例）も、減少。なお、インフルエンザの定点報告の内訳は、奈良市 HC 管内 40 例、郡山 HC 管内 72 例であった。奈良市 HC および郡山 HC 両管内基幹定点からの報告はなかった。郡山 HC 管内眼科定点から、急性出血性結膜炎と流行性角結膜炎が、各々 1 例ずつ報告があった。（村井 記）

県北部外来状況： 外来患者数は予防接種など多彩で春休み中混雑したが、感染症はあまり多くない。インフルエンザは、3 月中旬以降は B 型が 8 割、AH3N2（香港型）が 2 割程度で、AH1pdm は無い。流行型が変わったため咳が少なくなり、咽頭痛、腹痛、発病初期の嘔吐 1 回、頭痛など検査で初めて診断できる例が多くなった。保育園の乳幼児ではロタウイルス胃腸炎がほとんどとなっている。嘔吐は 1 日程度で軽快し、下痢が長期持続する最近シーズンのロタウイルスの特徴は変わらず、経口補水療法で充分で、入院や点滴の必要例は皆無です。伝染性紅斑の流行は昨年夏ごろより継続中、咽頭結膜熱もコンスタントにみられる。そろそろ水痘、流行性耳下腺炎の流行時期になりそうです。（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は 368 例から 312 例とやや減少した。上位の 5 疾患(13 週→14 週)は、①感染性胃腸炎(96 例→142 例)、②インフルエンザ(186 例→106 例)、③水痘(38 例→25 例)、④A 群溶連菌咽頭炎(14 例→18 例)⑤突発性発疹(6 例→8 例)であった。インフルエンザは減少して 2 位となり、感染性胃腸炎は増加して 1 位となった。基幹定点からは、葛城 HC よりマイコプラズマ肺炎(5~9 歳)1 例の報告があった。眼科定点からの報告はなかった。(徳田 記)

県中部外来状況：外来数は普通程度。種々の疾患が混在。インフルエンザ B 型が幼児で小流行中。症状は様々で、高熱・全身症状を呈する例は少なく 1~2 回程度の嘔吐などの軽度の消化器症状を伴う例も多い。併行して幼児で 39~40℃の高熱が 4~5 日持続し、アデノかと思われるも迅速陰性で確診に難渋している例がやや多い。乳児を中心にロタウイルス腸炎が流行中、嘔吐から始まり、中程度の発熱を伴う例が多く、嘔吐のみで下痢がまだない初期でも迅速陽性で確診可能。中に症状の強い例もある。学童で細菌性腸炎があり、ヴェロ毒素陰性の種々の病原性大腸菌で FOM 投与するも菌消失に時間を要する例がある。年齢がやや低く、咽頭所見が非典型的で、発疹のみの A 群溶連菌感染症、水痘、流行性耳下腺炎が僅かに見られる。(岡本 記)

県南部地区概況 報告数(第 13 週→第 14 週)は 80 例→85 例と推移。報告のあった疾患は①感染性胃腸炎(34 例→39 例)、②インフルエンザ(37 例→29 例)、③A 群溶連菌咽頭炎(6 例→10 例)、④水痘(0 例→4 例)、⑤流行性耳下腺炎(0 例→2 例)、⑥伝染性紅斑(0 例→1 例)。(柳生 記)

県南部外来状況：外来数はあまり多くない。インフルエンザが再び増加している。第 13 週では B 型が殆どであったが、第 14 週からは A 型が殆どとなっている。いずれも症状は軽いものが多い。感染性胃腸炎はロタウイルスが急増、1~3 才の幼児が主であるが学童や成人でもみられた。カンピロバクターも時々あり。A 群溶連菌咽頭炎は少なかったが、今週(第 15 週)で再び増加している。嘔吐、腹痛が主症状で咽頭発赤も余りなく、感染性胃腸炎と紛らわしいものもあった。アデノウイルス感染症、伝染性紅斑、流行性耳下腺炎もあった。(山本 記)

【月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（2、3月月報）】

平成 23 年 2 月および 3 月に、定点医療機関より奈良県内の保健所に届出された月報告対象の定点把握感染症の報告数は以下の通りです。

・STD 患者数（人）

| 疾患名/報告月 | 3月 | | 2月 | |
|---------------|-----|----------|-----|----------|
| | 報告数 | 定点当たり報告数 | 報告数 | 定点当たり報告数 |
| 性器クラミジア感染症 | 5 | 0.56 | 8 | 0.89 |
| 性器ヘルペスウイルス感染症 | 5 | 0.56 | 3 | 0.33 |
| 尖圭コンジローマ | 2 | 0.22 | 1 | 0.11 |
| 淋菌感染症 | 5 | 0.56 | 3 | 0.33 |

・薬剤耐性菌感染症患者数（人）

| 疾患名/報告月 | 3月 | | 2月 | |
|-------------------|-----|----------|-----|----------|
| | 報告数 | 定点当たり報告数 | 報告数 | 定点当たり報告数 |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 | 18 | 3.00 | 22 | 3.67 |
| ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 | 4 | 0.67 | 8 | 1.33 |
| 薬剤耐性緑膿菌感染症 | 1 | 0.17 | 5 | 0.83 |
| 薬剤耐性アシネトバクター感染症 | — | — | — | — |

（感染症情報センター 記）

【病原体（ウイルス）検出情報（平成 23 年 3 月）】

病原体定点医療機関から保健環境研究センターウイルスチームに搬入された検体の、3 月におけるウイルス検出状況は以下の通りです。

患者数（平成 23 年 3 月検出分）

| 検出病原体 | | 北和 | 中和 | 南和 | 臨床診断名 |
|---------|------------|----|----|----|------------|
| アデノ | 3 | 1 | | | 発疹症(1) |
| ロタ | A | 2 | 1 | | 感染性胃腸炎(3) |
| ノロ | GII | | 6 | 1 | 感染性胃腸炎(7) |
| インフルエンザ | A/H1N1 pdm | 2 | | 1 | インフルエンザ(3) |
| インフルエンザ | A/H3 | 3 | 1 | 1 | インフルエンザ(5) |
| インフルエンザ | B | 4 | 3 | | インフルエンザ(7) |

（保健環境研究センター 記）